内科

採用施設一覧（◎は基幹施設、〇は連携施設）

◎広尾病院
◎大久保病院
◎大塚病院
◎駒込病院
◎豊島病院

〇東部地域病院
〇神経病院

◎荏原病院
◎墨東病院
◎多摩総合医療センター
◎多摩北部医療センター
◎多摩南部地域病院

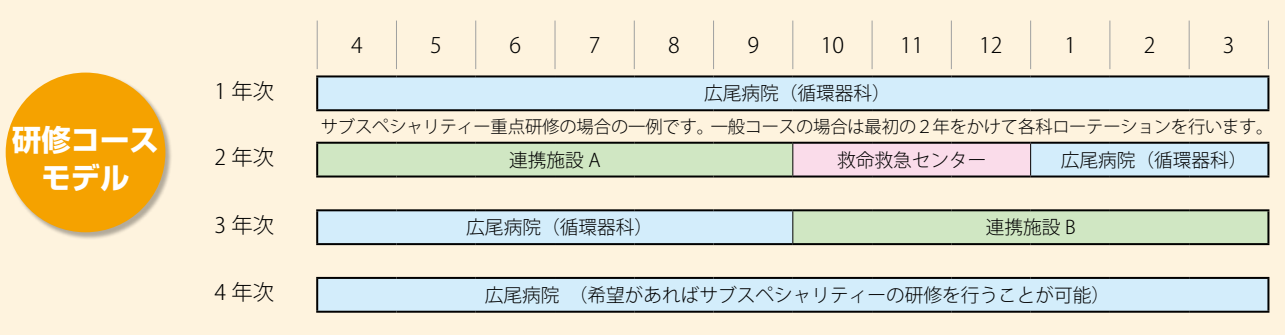
〇松沢病院

研修プログラムの特徴

● 広尾病院（基幹施設）
東京都立広尾病院内科専門研修プログラム

プログラム責任者：腎臓内科　田島　真人　　プログラム研修期間：3～4年（一部サブスペシャリティ連動研修有）
連携施設病院：大久保 / 大塚 / 駒込 / 豊島 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 松沢
東京共済病院 / 日本大学医学部附属板橋病院 / 東京科学大学病院 / 東京歯科大学市川総合病院 / 公立昭和病院 / 国立循環器病研究センター病院 / 日本医科大学付属病院 / JCHO 東京山手メディカルセンター / 横須賀共済病院 / JR 東京総合病院 / 浦添総合病院 / 島しょ等

東京都立広尾病院は、東京都区西南部（渋谷区、目黒区、世田谷区）に位置し、救急医療・災害医療・島しょ医療を重点医療とした病院です。内科診療科として、循環器科・呼吸器科・消化器科・神経内科・腎臓内科・内分泌 / 代謝科・血液内科を有します。さらに令和5年度からは病院総合診療科が新設され、さらに幅広い症例を経験する環境となっています。それらの中でも、救急医療に深く関わる循環器科は、都内でも有数の規模を誇ります。当院は約400床の中規模病院ですが、三次救急を扱う救命救急センターがあったり、東京都島しょ部（大島、三宅島、八丈島など）よりヘリ搬送の大半を引き受けていたりと様々な特色を有します。レジデントの皆さんがヘリに搭乗し、患者さんの搬送に携わる機会も多々あります。また、東京都に二つある基幹災害拠点病院の一つでもあり、災害医療に関する素養を身につけることも可能です。伝統的に各科の垣根が低いのが特色で、コンサルテーションや複数科での併診がしやすく、皆さんの研修のし易い環境と言えます。そのような当院の内科専門研修プログラムは、内科としての総合的な素養を磨くだけでなく、よりレジデントの皆さんの志望するサブスペシャリティー研修を重視することを目標としています。レジデントの皆さんとディスカッションを重ね、意見を取り入れ、より良い研修ができるよう、柔軟性のあるプログラムにしていきたいと考えております。



○ 広尾病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
循環器

プログラム責任者：循環器科　深水　誠二　　プログラム研修期間：2年

東京都立広尾病院は心臓病医療を重点医療の一つとしており、循環器科は日本循環器学会・日本不整脈心電学会・日本心血管インターベンション治療学会の認定研修施設である。不整脈疾患・虚血性心疾患・心不全などの症例のバランスが良いことが当科の特徴であり、これらの診療に必要な最先端の設備も多数備わっているため高度な水準の研

修が可能である。当院では血管内治療センター（心臓血管外科・脳神経外科・腎臓内科・放射線科）や救命救急センター・総合診療科との連携も良好なためさらに幅広い臨床経験が可能である。

本コースの目標とする専門医資格は日本循環器学会循環器専門医である。

また学術活動においても研修期間を通して、興味のある分野の臨床研究を行い、学会・研究会での発表や英文含む論文執筆を行うことを目標とする。

● 大久保病院（基幹施設）
東京都立大久保病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：副院長　鈴木　和仁

プログラム研修期間：3～4年（内科標準コース）、4年（内科サブスペ混合コース）、2～3年（サブスペコース）

連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 豊島 / 荏原 / 墨東 / 多摩総合 / 東部 / 多摩南 / 神経 / 松沢
東京女子医科大学 / 東京医科大学 / 戸田中央総合病院 / 島しょ等

本プログラムでは、特定診療科に偏らず、満遍なく内科研修を行う「内科標準コース（研修期間3～4年）」、内科研修と専門研修を並行して行う「内科・サブスペシャルティ混合コース（研修期間4年）」そして2021年度から新たに「サブスペシャルティコース（研修期間2～3年）」を設け、専攻医の多様な要望に対応しております。

「内科標準コース」では、基幹施設である当院及び連携施設での研修により、専攻医3年終了時に「研修手帳」に定められた56疾患群、160症例以上の診療経験を達成します。規定の経験目標達成後は大久保病院で内科領域全般または希望する専門領域の研修を行えます。専門領域からcommon diseaseの経験をはじめ、複数の病態を持った患者の診療経験の他、高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験もでき、多彩な研修が可能です。「内科・サブスペシャルティ混合コース」では、専攻医1年目から内科領域全般の研修と並行して専門研修を開始できます。内科系各診療科は教育施設・研修施設の認定を受けており、専門領域について十分な指導体制を整えています。当院では研修困難な診療科（血液内科、アレルギー・膠原病内科、感染症科、ER《必修》等）や、他院での専門科目の研修を希望する場合は、2年次に連携施設で6～12ヶ月の院外研修で行います。

「サブスペシャルティコース」は、すでに専門医を取得または受験資格を有する方を対象としており、2～3年間で内科系サブスペシャルティを取得します。詳細は当院ホームページをご参照ください。

個々の希望・将来像に対応できるよう相談しながら研修プログラムを考えていきます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション											
	内科標準コースでは内科系7科から選択しローテーションします。内科・サブスペ混合コースではサブスペを中心とし、症例登録に不足している科を追加研修します。											
2年次	連携施設（サブスペシャルティコースを除きER3ヶ月は必修）											
	両コース共に2年次に連携施設で6ヶ月～1年間の研修を行います。研修施設は当院では研修困難な診療科を中心に専攻医との相談の上選択します。											
3年次	サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション											
	内科標準コースにおいても規定の経験目標を達成後は3年次途中から希望するサブスペシャリティ研修に移行することができます。											
4年次	サブスペシャルティあるいは内科各科ローテーション											
	希望により1年間サブスペシャルティ研修を行うことができます。											

○ 大久保病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
循環器

プログラム責任者：循環器内科　岡野　喜史　　プログラム研修期間：4年

内科総合専門医を取得後、循環器内科専門医、不整脈専門医の取得を目指す。J-OSLERにリンクした形式で日本循環器学会、日本不整脈心電学会等が提示する症例登録を行う。並行して心臓超音波検査などの生理機能検査、画像診断、および心不全治療、心臓カテーテル検査、アブレーション治療、デバイス移植術などの必要症例の経験と学会発表の指導を行う。臨床業務においては、循環器内科診療のスキルアップができる（二次）救急科を兼務する。また他の都立病院循環器内科での3次救急診療、心臓血管外科でのローテーション研修も可能である。

新専門医制度
腎臓

プログラム責任者：腎臓内科　小川　俊江　　プログラム研修期間：4 年

内科総合専門医を取得後、腎臓専門医、透析専門医、移植認定医の取得を目指す。J-OSLER にリンクした形式で腎臓学会が提示する症例登録を行う。並行して、透析専門医、移植認定医取得に必要症例の経験と学会発表の指導を行う。臨床業務においては、透析を含む腎内科、腎移植外科、一般診療のスキルアップができる（二次）救急科を兼務する。他の都立病院の腎内科（病院により特徴がある）、腎内科関連科（膠原病・感染症・循環器科・血液内科など）、国内第一の腎移植ハイボリュームセンターである東京女子医科大学などへのローテーションが可能である。

● 大塚病院（基幹施設）
東京都立大塚病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：消化器内科　倉田　仁　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

連携施設病院：広尾 / 大久保 / 駒込 / 豊島 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩北 / 多摩南 / 神経
東京科学大学病院 / 東邦大学医療センター大森病院 / 草加市立病院 / 東京都済生会中央病院 /
JA とりで総合医療センター / 慶應義塾大学病院 / 東京歯科大学市川総合病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 /
川崎市立井田病院 / 横須賀共済病院 / 平塚共済病院 / 土浦協同病院 / 東京女子医科大学病院 / 島しょ等

当院内科は統合されており消化器、呼吸器、循環器、腎臓、内分泌・代謝、神経、血液の専門医が垣根なく指導にあたります。また、リウマチ・膠原病科は重点医療として独立しているため、膠原病系難病の症例も豊富です。基本コース 3 年間またはサブスペシャリティコース 4 年間で、最初の 1 ヶ月はオリエンテーションも含め、将来サブスペシャリティに希望する科を選択します。必修の救急 /ER 研修は、墨東病院・広尾病院・多摩総合医療センターのいずれかで経験を積みます。当院では、多臓器疾患の合併症を持つ高齢者を輪番制で受け持ち、総合内科初診外来を担当することで、オールラウンドな内科研修が可能です。

なお、各科ローテーションは履修状況で省略 / 延長可能（希望科として調整）となっているほか、希望科は場合によりサブスペ科も可能です。また、両コースともに新内科専門医のプログラムと連動しており専門医の取得が可能です。習熟度に応じて早期にサブスペシャリティ研修を開始し、スムースに移行できるよう配慮しています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	希望科	神経	アレルギー	血液	膠原病	代謝	救急・ＥＲ			内分泌	循環器	消化器
2 年次	呼吸器	腎	希望科	連携施設								
3 年次	サブスペシャリティ											
4 年次	サブスペシャリティ											

○ 大塚病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
糖尿病

プログラム責任者：糖尿病・内分泌代謝内科　中村　佳子　　プログラム研修期間：1 ～ 4 年

内科基本領域研修を終了後、内分泌代謝・糖尿病内科領域から連動し糖尿病内科研修を行い、領域専門医取得および糖尿病専門医受験資格を得ることを目標とします。糖尿病合併症に関連した専門科領域のローテーションを必要に応じて行います。病棟では教育・血糖コントロール入院、糖尿病患者の周術期・入院中の血糖管理、耐糖能異常妊婦管理を経験し、急性合併症の救急対応も学び、外来では、初診から診断、評価、治療方針決定などマネージメント能力を身につけます。研修指導医、専門医にいつでも相談できる体制です。患者教育活動・指導として、糖尿病教室、糖尿病週間イベント、医師会主催のウォークラリーに参加します。連携医療機関での半年から 1 年間の糖尿病研修も可能です。研修終了時にはチーム医療の主軸となり活動できることを目指します。

● 駒込病院（基幹施設）
東京都立駒込病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　岡本　朋　　プログラム研修期間：3～4年

連携施設病院：広尾 / 大久保 / 大塚 / 豊島 / 荏原 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩北 / 多摩南 / 神経 / 松沢
ＮＴＴ東日本関東病院 / 新渡戸記念中野総合病院 / 湘南鎌倉総合病院 / 国立がん研究センター中央病院 / 東京科学大学病院 / 東京大学医学部附属病院 / 東京健生病院 / 大泉生協病院 / 東京大学医科学研究所附属病院 / 結核予防会複十字病院 / 青森県立中央病院 / 岩手県立中央病院 / 山形県立中央病院 / 魚沼基幹病院 / 国立がん研究センター東病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 飯塚病院 / 静岡県立静岡がんセンター / JCHO 東京山手メディカルセンター / 帝京大学ちば総合医療センター / 東京女子医科大学病院 / 大森赤十字病院 / 近畿大学病院 / さいたま赤十字病院 / 聖マリアンナ医科大学病院 / 島しょ等

本プログラムは、各診療科の総合基盤を備えた、がんと感染症を重視した病院であると同時に、東京都区中央部医療圏の２次救急病院である駒込病院を基幹施設として、東京都内にある連携施設・特別連携施設において施行されます。３年コース（内科専門研修コース）および４年コース（内科・サブスペシャルティ混合コース）が設置されています。いずれのコースも東京医師アカデミーとしてサブスペシャルティ領域を見据えたプログラムと連動しており、３年コースでは専攻医３年目からサブスペシャルティ研修を開始できます。４年コースでは、内科領域全般の研修を４年間かけて行うと同時に専攻医１年目から６か月のサブスペシャルティ専門研修を開始するコースです。令和７年度採用専攻医は消化器内科コース３名、血液内科コース２名、感染症科コース各２名でした。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	呼吸器内科						他の内科			ＥＲ（墨東病院）		
	内科・サブスペシャルティー混合コースの例で、１年目から呼吸器内科を６か月研修する。東京医師アカデミーではＥＲ研修が必須である。											
2年次	呼吸器内科						他の内科					
	内科領域全 70 疾患群、200 症例以上の登録のために不足している科の研修も可能。											
3年次	呼吸器内科						放射線診断部			呼吸器内科（多摩総合医療センター）		
	連携施設では当院呼吸器内科で経験できない肺結核等の診療を学ぶことができる。											
4年次	呼吸器内科						緩和ケア科			呼吸器内科		
	４年間の研修終了後に内科専門医試験に合格し、その後に日本呼吸器学会専門医試験に合格することを目標とする。											

○ 駒込病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度　呼吸器

プログラム責任者：呼吸器内科　細見　幸生　　プログラム研修期間：3 / 4 年

本プログラムは、各診療科の総合基盤を備えた、がんと感染症を重視した病院であると同時に、東京都区中央部医療圏の２次救急病院である駒込病院を基幹施設として、連携施設・特別連携施設において施行されます。

３年コース（内科専門研修コース）および４年コース（内科･サブスペシャルティ混合コース）が設置されています。

呼吸器専門研修で必要な疾患群と症例数を経験し、臨床研究の立案、論文発表および国内外の学会での発表を行います。

新専門医制度　感染症

プログラム責任者：感染症科　今村　顕史　　プログラム研修期間：3 年

当院は、「第一種感染症指定医療機関」に指定されており、有事の際に対応できる人材の育成を行っています。また、「エイズ診療拠点病院」にも指定されており、多くの HIV 感染者の診療を行っています。さらに、「トラベルクリニック」としての活動も小児科との協働で行っています。その他、「感染制御科」と協働して、院内感染対策や感染症コンサルテーション業務を担っています。当院での感染症サブスペシャルティ研修修了後には、病院や地域における感染症のスペシャリスト･リーダーとして独り立ちできることを目標としています。ベースの基本領域を踏まえて、学会認定専門医、専門医機構認定専門医の取得を目指します。

新専門医制度
消化器内視鏡　プログラム責任者：消化器内科　飯塚　敏郎　　プログラム研修期間：3 年

本研修カリキュラムは、内視鏡治療に関する高度な知識や技術のみならず、通常の検査、治療方針を決定するための精密検査、治療内視鏡の適応判断、内視鏡中の鎮静、偶発症への対応等に関する専門的知識の習得を目標とします。また他領域との連携や知見の共有、チーム医療の実現の必要性を踏まえ、咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肝胆膵におよぶ幅広い知識と技術を有することを目標とします。

技術的側面として、通常の上下部内視鏡検査が一人でできるところまで完成することを目指します。同時に内視鏡治療の介助の経験を踏まえ、治療手技の取得を図ります。学術的側面として、カンファランスを通して、診断能力の向上を図ります。また症例報告の学会での報告・発表や臨床研究を企画しその成果を発表する能力をつけます。

新専門医制度
腫瘍内科(がん薬物療法)　プログラム責任者：腫瘍内科　下山　達　　プログラム研修期間：2 ～ 5 年

臨床腫瘍学を修得し、最終年度には腫瘍内科専門医の試験を受け合格する

担当臓器は他施設研修も含め、消化管、肝･胆･膵、造血器、呼吸器、乳房、婦人科、泌尿器、頭頸部、骨軟部、皮膚、中枢神経、胚細胞、小児、内分泌、原発不明の腫瘍 15 領域の薬物療法、緩和医療学を習得する。

当科においては、固形癌や悪性リンパ腫の薬物療法、細胞免疫療法（CAR-T 治療）、ゲノム診療（オンコパネル）について習得。外来診療では副作用外来も従事する。

がんの基礎的知識、薬物治療の原則、トランスレーショナル / 臨床研究の適切な実施法とその解釈について理解するために、最低 1 つ臨床研究プロトコールを作成、実施する。研修期間中の臨床研究の成果を論文および学会（臨床腫瘍学会、ASCO 等）にて発表を行う。

● 豊島病院（基幹施設）
東京都立豊島病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　藤ヶ﨑　浩人　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

連携施設病院：広尾 / 大久保 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合
東京都健康長寿医療センター / 東京科学大学病院 / 日本大学医学部附属板橋病院 / 青梅市立総合病院 / JCHO 東京山手メディカルセンター / 新渡戸記念中野総合病院 / 国立病院機構災害医療センター / 武蔵野赤十字病院 / 横須賀共済病院 / 横浜南共済病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 / 平塚共済病院 / 土浦協同病院 / JA とりで総合医療センター / 柏市立柏病院 / 草加市立病院 / 秀和総合病院 / さいたま赤十字病院 / 島しょ等

本プログラムは、東京都区西北部医療圏の中心的な急性期病院である、東京都立豊島病院を基幹施設として、東京都区西北部医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで構成されます。内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療が行えます。研修期間は基幹施設 2 年間 + 連携施設・特別連携施設 1 年間の計 3 年間です。本研修では、症例をある時点で経験するということだけでなく、主担当医として入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する、全人的医療を実践します。そして、個々の患者に適切な医療を提供する計画を立て、実行する能力の修得をもって目標の達成とします。当院は急性期病院の一つであるとともに、地域の病診･病病連携の中核の一つです。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。本プログラムでは、専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 3 つのコース、①内科標準コース、②サブスペシャルティ重点研修コース、③内科・サブスペシャルティ混合コースを準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	内科①		内科②		内科③		内科④		内科⑤		内科⑥⑦	

1～2 回 / 月の内科当直研修、1 年目に JMECC を受講

2 年次	内科⑧（連携施設）	ER 研修（連携施設）	内科サブスペシャリティ研修（連携施設）

連携・特別連携施設での研修。適宜希望内科及び島しょ医療研修。2～4 回 / 月の内科当直。

3 年次	内科サブスペシャリティ研修

基幹 / 連携施設での研修。初診＋再診外来。2～4 回 / 月の内科当直。

○ 豊島病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
循環器

プログラム責任者：循環器内科　中島　淳　　プログラム研修期間：2 年

当科は日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈心電学会の認定研修施設です。当院は救急医療を重点医療に挙げており、東京都 CCU ネットワークに加入し循環器救急の受け入れも積極的に行っています。虚血性心疾患、不整脈疾患、心不全等の循環器疾患をバランスよく研修することができる環境です。

常勤医師が 8 名のため、冠動脈形成術や末梢血管治療、カテーテルアブレーション等の侵襲的治療については早い段階から術者や主治医として経験することが可能です。

本コースは循環器専門医の取得を目標としますが、日本心血管インターベンション治療学会や日本不整脈心電学会の専門医取得のための研修も兼ねています。

また研修中には関連学会での発表を積極的に行い、症例報告や臨床研究での論文発表を目指します。

● 荏原病院（基幹施設）
東京都立病院機構東京都立荏原病院内科専門研修プログラム

プログラム責任者：内科　水谷　勝　　プログラム研修期間：3～4 年

連携施設病院：大久保 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 松沢
東邦大学医療センター大森病院 / 東京医科大学病院 / 昭和医科大学病院 / 昭和医科大学藤が丘病院 /
昭和医科大学横浜市北部病院 / 昭和医科大学江東豊洲病院 / 医療法人社団永高会 蒲田クリニック / 宮崎市郡医師会病院 / 島しょ等

当院は、区南部に位置し、地域連携に重きを置いた急性期医療に取り組む地域密着型の病院です。救急医療、脳血管疾患医療、集学的がん医療を重点医療に掲げています。本プログラムでは、東京都区南部二次医療圏の中核的な急性期病院である当院を基幹施設として、都立病院、大学病院および地域特別連携施設と連携することによって各領域を網羅しています。本プログラムの理念は「心温まる医療を提供できる内科専門医を育成する」ことです。そのためには患者―医師信頼関係の構築、スタッフ間の調和、外部組織との連携協力関係の実践、専門知識・技術の習得、クリニカルクエスチョンの追求、医療環境の理解等、多岐にわたる視点が必要で、それらの問題意識を持って医療を行える内科専門医の育成を行います。

内科基本コースは、基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間の計 3 年間であり、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得することを目指します。各自の希望や経験に合わせてローテートを組むことができます。

また、2025 年度より消化器･循環器のサブスペシャリティーコース（4 年間）を新設し、充実したサブスペシャリティ領域の研修を行えるようになっております。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	診療科①			診療科②			診療科③			診療科④		

一般内科（予約外受診）の外来を週 1 回、月 3 回（平日 2 回、土日祝日 1 回）程度の内科当直を行う。

2 年次	診療科⑤	診療科⑥	診療科⑦	ER（墨東病院）

一般内科（予約外受診）の外来を週 1 回、月 4 回（平日 2 回、土日祝日 2 回）程度の内科当直を行う。

3 年次	連携施設・特別連携施設	希望診療科

3 年次では連携施設での研修を行い、専門性のより高い研修を行う。

診療科①～⑦：消化器、呼吸器、循環器、脳神経、内分泌、感染症、ER をローテート

○ 荏原病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
消化器　プログラム責任者：消化器内科　野津　史彦　　プログラム研修期間：4 年

4 年間の研修期間中に、内科専門医および消化器内科医として必要な知識・診断手順・治療を身に付け、最終的には一人で外来および入院診療を担当できるよう育成していくコースです。2 年次までに内科専門医取得に必要な症例を各内科で研修し、必要に応じて連携病院での研修を行うとともに、ER 研修も行います。3・4 年次は消化器領域中心の研修を行います。消化器病専門医研修カリキュラム表に掲載された習得必要な症例について、日々の診療を通して学んでいきます。上部・大腸内視鏡検査、胆膵内視鏡検査、腹部超音波検査を習得し、診断手技に加え、指導医の介助のもとで行う治療手技も習得します。症例を通じて研修した成果を学会で発表し、論文作成を行えるよう指導します。

新専門医制度
循環器　プログラム責任者：循環器内科　戸田　幹人　　プログラム研修期間：4 年

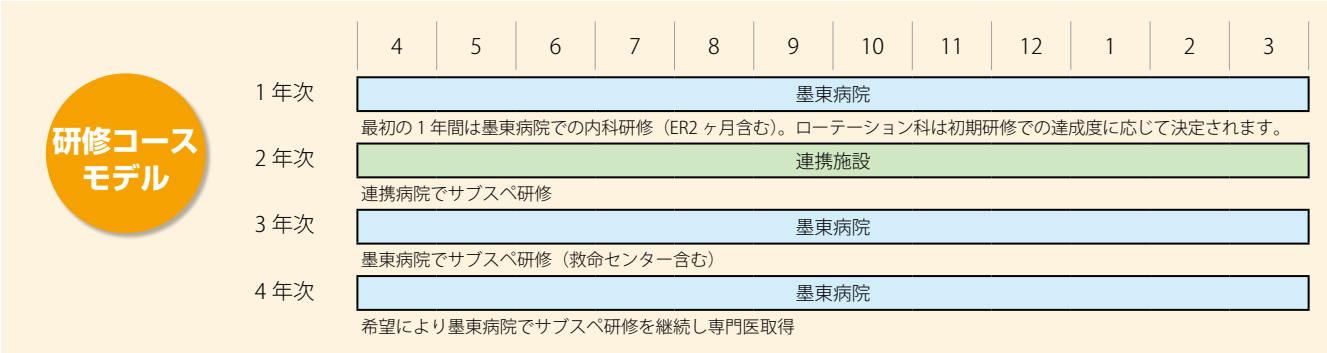
内科専門医取得と併行して循環器内科専門医取得を目指します。1 年次は呼吸器内科や消化器内科などをローテートし、J-OSLER に必要な症例を経験します。すでに必要な症例数に達している領域は相談に応じて希望する内科へ変更も可能です。2 年次以降は荏原病院を主軸として循環器内科ローテートを行い、循環器 J-OSLER に必要な症例を経験します。指導医の下で心不全管理、心臓超音波検査および読影、心臓カテーテル検査、ペースメーカ植込み術など行います。循環器内科カンファレンスを多職種とも行い、症例の振り返りや検討を通じてチーム医療も経験します。当院で経験できない症例（先天性心疾患）や治療（経カテーテル的大動脈置換術、経皮的僧帽弁クリップ術など）に関しては連携施設での研修を予定しており、相談に応じて研修施設も調整可能であり、三次救急診療の研修も相談可能です。研修を通じて一般内科二次救急診療を行うため、循環器内科領域以外の内科知識習得や初期対応も継続して学習可能です。

● 墨東病院（基幹施設）
都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：脳神経内科　水谷　真之　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

連携施設病院：広尾 / 大久保 / 大塚 / 駒込 / 豊島 / 荏原 / 多摩総合 / 東部 / 多摩南 / 神経 / 松沢
東京科学大学病院 / 東京大学医学部附属病院 / 筑波大学附属病院 / 千葉大学医学部附属病院 / 日本医科大学千葉北総病院 / 東京大学医科学研究所附属病院 / 奈良医科大学附属病院 / 国立循環器病研究センター / 国立国府台医療センター / 国立がん研究センター 中央病院 / 筑波記念病院 / 同愛記念病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 静岡がんセンター / ＪＡとりで総合医療センター / 横須賀共済病院 / 静岡てんかん・神経医療センター / 榊原記念病院 / 大森赤十字病院 / 川西市立総合医療センター / 小倉記念病院 / 平鹿総合病院 / 哲西町診療所（岡山）/ 筑波メディカルセンター病院 / 豊橋ハートセンター / 国際医療福祉大学成田病院 / 国立精神・神経医療研究センター病院 / 浦添総合病院 / 島しょ等

本プログラムは、区東部医療圏の中心的急性期病院である墨東病院を基幹施設とし、都区東部医療圏、近隣医療圏、都島しょにある連携・特別連携施設での専門研修を経て、超高齢社会、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるよう訓練されます。研修プログラムとして日本内科学会の提示する 4 つのタイプ、すなわち内科標準タイプ、サブスペシャリティ重点研修 1 年タイプ、サブスペシャリティ重点研修 2 年タイプ、内科・サブスペシャリティ混合タイプのいずれも選択可能です。当プログラムの専攻医は基幹施設である墨東病院内科で 2 年間 (混合タイプは 3 年間) を、連携施設・特別連携施設で 1 年間の研修を行い、選択すべき施設と期間は専攻医の希望の他、達成度、進捗度を合わせてプログラム管理委員会で検討し決定します。4 年次は原則サブスペシャリティ専門医取得に向けた研修を継続しますが、内科専門医を取得した場合には計 3 年間でのプログラムの修了も可能とします。当研修では、主担当医として、入院から退院までの診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整の全人的医療を実践し、個々の患者に適切な医療の提供、計画を立て実行する能力の修得をもって目標の達成とします。当院は急性期病院かつ地域の病診・病病連携の中核病院であるため、高度な急性期医療のみならず、コモンディジーズ、また超高齢社会特有の複数病態を持った患者の診療、さらには必要に応じて診療所 (在宅訪問診療施設等含む) との連携等の経験も可能です。専攻医 3 年修了時には「研修手帳」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験し、内科専門医取得を目指します。



○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 消化器内科　プログラム責任者：消化器内科　東　正新　　プログラム研修期間：3 年

消化器内科医として必要な消化器領域（消化管・肝胆膵領域）の知識及び技術を習得することを目的とし、主治医（主担当医）として「消化器病専門医研修カリキュラム評価表」に掲載された全 107 疾患のうち症例経験の到達目標が 2 または 3 に該当する疾患を中心として 58 疾患以上を、消化管・肝・胆膵・腹腔・腹壁疾患のそれぞれに偏りのないように経験し、150 症例以上の症例数を確保します。領域の基本検査として、上下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査を単独で行え、必要に応じ他の医師の介助のもとで内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下剥離術（ESD）、逆行性胆管膵管造影検査（ERCP）及び内視鏡的胆管ドレナージ、経皮経肝胆管ドレナージ、超音波ガイド下肝生検、ラジオ波焼灼術（RFA）を完遂できるよう技術を習得します。

新専門医制度 循環器　プログラム責任者：循環器内科　黒木　識敬　　プログラム研修期間：3 年

本コースは、日本循環器学会専門医の取得を目指し、分野を問わず循環器内科の基礎から実践まで一貫して修得することを目的とする。虚血性心疾患に対する血管内治療では、適応判断から治療戦略、手技の完結までを段階的に学び、日本心血管インターベンション治療学会の認定医取得を目指す。不整脈治療や構造的心疾患の治療にも参画可能であり、重症患者への対応のため救命救急センターでの研修も選択できる。急性冠症候群に対しては、診断から急性期管理、心臓リハビリ、再発予防まで一貫して担当する。心不全管理にも注力しており、心臓リハビリテーション指導士の取得も支援する。多様な症例データを活用して前向き・後向きの臨床研究を遂行し、主要学会での発表、さらに海外学会発表から英語論文作成までを一貫して指導する体制を整えている。

新専門医制度 呼吸器　プログラム責任者：呼吸器内科　小林　正芳　　プログラム研修期間：3 年

呼吸器学会が示す概念図のうち【連動研修タイプ】を想定し、墨東病院呼吸器内科及び連携施設 / 特別連携施設で、それぞれ 1 年以上の研修を行い、選択すべき施設と期間は専攻医の希望の他、達成度、進捗度を合わせてプログラム管理委員会で決定します。4 年次はサブスペシャリティ専門医取得にむけた研修を継続します。主担当医として、入院から退院までの診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整の全人的医療を実践し、個々の患者に適切な医療の提供、計画を立て実行する能力の習得をもって目標の達成とします。呼吸器専門研修で呼吸器専門医取得に必要な 12 疾患群、150 症例以上の経験し、所定の呼吸器病学関連の論文及び呼吸器関連学会での発表を行います。

新専門医制度 血液　プログラム責任者：血液内科　小杉　信晴　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった造血器腫瘍をはじめ、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、免疫性血小板減少性紫斑病、溶血性貧血などの血液疾患全般に対し、迅速に診断・鑑別診断を行い、最適な治療を行っています。化学療法の副作用管理や、骨髄抑制時の適正輸血、感染症に対する診断、抗生剤の選択を学ぶ事ができます。自己末梢血幹細胞移植を行っており、幹細胞採取や前処置、移植後の管理を行います。同種移植については連携病院にて経験していただきます。手技としては、骨髄穿刺・生検、髄注、中心静脈ルート確保は必須であり、多くの経験

を積む事ができます。血液疾患患者は病態、治療による合併症などにより、総合的な全身管理が求められ、ジェネラリストとしてのスキルを延ばす事もできると考えます。

新専門医制度 腎臓　プログラム責任者：腎臓内科　井下　聖司　　プログラム研修期間：3 年

腎臓専門医としての能力を高いレベルで習得することを目標とし、腎臓・透析専門医の取得を目指します。

ネフローゼ症候群や急性腎臓病、電解質異常などの症例が豊富で、病棟患者さんをチーム制、シャントアクセス・腹膜透析・療法選択外来等専門外来も担当し、診断や治療を行います。

腎センターも運営しており、維持透析患者さんはほとんどおらず、入院透析や急性期の血液浄化を中心に行っています。

集中治療室や感染症科病棟での出張透析も多数行い、持続血液透析は集中治療科と協力して行っています。

腎生検だけでなく、内シャント造設術、動脈表在化術、長期カテーテル留置術、バスキュラーアクセスインターベンション、腹膜透析カテーテル挿入術などの手技を自立して行えることを目標にします。

新専門医制度 肝臓　プログラム責任者：消化器内科　東　正新　　プログラム研修期間：3 年

消化器病専攻カリキュラムを修了後に「肝臓専門医研修カリキュラム」に定める症候群・聴講群、検査、処置などを経験し、肝臓専門医に必要な基本的知識として肝臓の生理・代謝・解剖、肝臓病の病態・病理、臨床腫瘍学、法規（肝炎対策基本法、医療費助成、改正臓器移植法、身体障害者福祉法）を理解し、肝疾患全般に関連する知識の習得に努めます。血液検査、腹部超音波検査を含む画像検査、薬物治療、栄養療法、経皮的治療、経血管的治療、経内視鏡的治療、関連する症状・救急病態への対応、超音波ガイド下肝腫瘍生検、ラジオ波焼灼術（RFA）を完遂できるよう技術習得を行います。カリキュラムに定めた 34 疾患（目標症例数 102）、12 症状・徴候（目標症例数 36）の 7 割以上を主治医（主担当医）として経験します。

新専門医制度 感染症　プログラム責任者：感染症内科　中村　ふくみ　　プログラム研修期間：3 年

感染症科医が関わる業務は多岐にわたり、知識、診療技術が幅広く求められる。また輸入感染症に対応できる医師の需要が高まり、高度な知識を持つ感染症科医の育成が喫緊の課題になっている。当院は、入院･外来診療のみならず、院内コンサルテーション、院内感染対策、行政医療（第一種感染症指定医療機関）のすべてを行っている数少ない施設のひとつである。通常の感染症の診療、院内コンサルテーション、院内感染対策、行政医療、病院感染症疫学などについて研修、実践し、アウトブレイク時のリスクコミュニケーションも研鑽することで感染症科医としての能力を育成し、日本感染症学会が定めるカリキュラムに基づいての研修・論文発表 1 篇、学会発表 2 篇、計 3 篇を行い、感染症専門医取得を目標とする。

新専門医制度 脳神経内科　プログラム責任者：脳神経内科　水谷　真之　　プログラム研修期間：2 年

内科専門医コース修了後に脳神経内科専門医取得を目指す医師、並びに脳神経内科専門医を取得後に更なる研修の継続を希望する医師を対象とする。研修年限に関してはレジデントの希望に応じるが、原則 2 年とする。当院内科プログラムでの連動研修が可能である。

当プログラムにおいて重点的に経験すべきは、脳卒中、けいれん発作、ギラン・バレー症候群や多発性硬化症などの自己免疫疾患等、神経救急疾患の診療である。必要に応じ、東京科学大学で神経生理、神経病理の研修を行う。希望があれば、集中治療室や救命センターでの研修もみとめる。また脳神経外科の協力の下、脳卒中学会専門医取得のための研修を行うこともできる。

研修期間中、毎年 2 回以上の学会発表を行う。

新専門医制度 リウマチ　プログラム責任者：リウマチ膠原病科　島根　謙一　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

目標は、専門医の取得はもとより、専門医として個々の患者さんに適切な診療を行えるようになることである。

①自己免疫・炎症性疾患

発熱疾患全般、基礎においては免疫学と遺伝医学に精通している。

②病変が多臓器

臓器ごとの解剖や病態生理を理解している。
③敢えて臓器別に言えば筋骨格系を専門
リウマチ性疾患には様々な病因が含まれているが、それらを広く理解することが重要である。
④病因・病態・病理を踏まえて診断し治療方針を決める
各疾患について基礎と臨床の両面から精通している。
上記①～④を病棟研修、外来研修、各種勉強会を通じて診療能力を高めていく。
＜当院の特徴＞①救急・重症・難治性患者さんの診療、②専門性の高い医療の提供、③重症を中心とした妊娠合併膠原病患者さんの診療。

新専門医制度
消化器内視鏡

プログラム責任者：消化器内科　古本　洋平　　プログラム研修期間：3 年

以下に示す消化器内視鏡専門医受験資格を完了することを目標とします。
①領域経験症例数として規定されている上部消化管内視鏡検査（EGD）・治療 1000 例、下部消化管内視鏡検査（CS）・治療 300 例を経験する。
②可能な限り研修手帳に定めた疾患を経験する。研修終了時点でその 80%を経験し JED に登録する。
③領域全般について診断と治療に必要な検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得する。
上記目標に向けて、当科で定めたトレーニングシステム（ラダー）に沿って研修を行う。

新専門医制度
内分泌・糖尿病

プログラム責任者：内分泌代謝内科　南雲　彩子　　プログラム研修期間：3 年

内科専門医取得後に日本内分泌学会専門医、日本糖尿病学会専門医取得を目指す医師、並びにどちらかの専門医取得後にさらなる研修を希望する医師を対象とする。当プログラムでは、専門医取得を目指し、内分泌救急、下垂体、副腎、甲状腺、副甲状腺、糖尿病、内分泌疾患・糖尿病合併妊娠などの疾患を入院、外来で経験する。また年に 1 ～ 2 回内分泌学会、糖尿病学会での学会発表を行う。

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
東京都立多摩総合医療センター内科専門研修プログラム

プログラム責任者：内分泌代謝内科　佐藤　文紀
プログラム研修期間：3 ～ 4 年（内科専門研修としては最短 3 年。一部サブスペシャリティ連動研修も可能。）
連携施設病院：広尾 / 大久保 / 大塚 / 駒込 / 豊島 / 墨東 / 多摩北 / 多摩南 / 神経 / 松沢
帯広第一病院 / 宮城県立がんセンター / 秋田赤十字病院 / 山形県立中央病院 / 白河厚生総合病院 /
福島県立医科大学会津医療センター / 竹田綜合病院 / 水戸協同病院 / 土浦協同病院 / JA とりで総合医療センター /
栃木医療センター / 済生会宇都宮病院 / 群馬県立心臓血管センター / 埼玉県済生会加須病院 / 埼玉石心会病院 /
さいたま市立病院 / 草加市立病院 / さいたま赤十字病院 / 帝京大学ちば総合医療センター / 国保旭中央病院 /
船橋市立医療センター / 東京ベイ・浦安市川医療センター / 亀田総合病院 / 国立病院機構東京病院 / 日野市立病院 /
青梅市立総合病院 / 公立昭和病院 / 東京科学大学病院 / 東京都健康長寿医療センター / 東京大学医科学研究所附属病院 /
東京大学医学部附属病院 / 災害医療センター / 武蔵野赤十字病院 / がん研究会有明病院 / 横浜市立みなと赤十字病院 /
川崎市立多摩病院 / 横須賀共済病院 / 湘南鎌倉総合病院 / 国立病院機構相模原病院 / 川崎市立井田病院 / 長岡赤十字病院 /
新潟市民病院 / 新潟県立燕労災病院 / 魚沼基幹病院 / 新潟県立十日町病院 / 山梨県立中央病院 / 安曇野赤十字病院 /
諏訪中央病院 / 高山赤十字病院 / 聖隷浜松病院 / 沼津市立病院 / 神戸市立医療センター中央市民病院 /
島根大学医学部附属病院 / 隠岐病院 / 隠岐島前病院 / 飯塚病院 / 今村総合病院 / 沖縄県立宮古病院 / 浦添総合病院 /
天理よろづ相談所病院 / 西伊豆健育会病院［特別連携］/ 島しょ等［特別連携］

当院では，過去 10 年間に 100 名を超える内科系シニアレジデントの後期研修を担ってきた経験と実績があります。
基幹施設の内科系専門診療科には、総合診療科（内科研修における総合内科領域も担当）、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、リウマチ膠原病内科、血液内科、感染症科、緩和ケア科があります。

また、脳神経内科領域は、多摩総合にある神経脳血管内科では急性期脳血管障害が中心となります。神経難病の診療は主に都立神経病院脳神経内科で経験してください（別病院のため、連携施設研修扱いです）。救急外来・救命の計 3 か月は必修となっています。

内外のローテーションを通じて、内科専門医取得に必要な疾患群と症例をしっかり経験します。カリキュラムは，1 年目は各診療科をローテーション（原則 3 か月単位、一部診療科は 1.5 か月限定）、2 年目を中心に主に他県の連携施設等で研修、3 年目は専門内科で研修、という 3 年が基本ですが、連携施設の選択やその時期については予め志望専門内科分野の責任医師と相談しながら検討します。連携施設等での研修は、原則として合計 1 年（採用枠により合計 1 年半）が必須です。

内科専攻医の当直は月 4 回程度の救急外来当直からはじまります。

JMECC を早いうちに受講します。JMECC 受講済なら当院開催等でアシスタントを担い、インストラクターを目指してください。

専門内科サブスペ領域との連動研修は考慮していますが、本プログラム自体の年限は 3 年間でありサブスペ研修完遂まではカバーしておりません。ただし、J-OSLER の模範的な進捗を含めた内科研修実績等に基づき、さらに 1 年のサブスペ研修が考慮されることがあります。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	内科 1			救急外来 / 救命			内科 2			内科 3		
2 年次	連携施設											
3 年次	専攻内科											

【1 年目】3 か月 1 単位を原則としたローテーション研修を行う。救急外来 / 救命の計 3 か月は必修。

【2 年目】東京都外の施設を中心とした連携施設研修を行う。施設によっては外来診療にも携わる。内科学会への病歴要約提出準備を行う。

【3 年目】病歴要約 29 編を提出する。専門診療科での研修を基本とし、週 1 回の外来診療にも従事する。

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 消化器病　プログラム責任者：消化器内科　並木　伸　　プログラム研修期間：3 年

消化器病学会専門医制度（消化器病学会版 J-OSLER）に即した研修を提供し、消化器病専門医取得を目的とする。内科専門医を基本領域とする消化器病専門医研修期間としては専門研修 2 年次以降の連動研修が認められている。当院を基幹施設とし消化器病急性疾患（消化管出血、急性胆道炎、肝膿瘍、重症膵炎、劇症肝炎など）、消化器がん診療（内視鏡治療（EMR, ESD, ERCP, Interventional EUS）や経皮的インターベンション（PTBD, RFA）、がん化学療法）まで幅広く研修を行い、消化器病学会総会もしくは、関東支部例会での発表を行う。内科研修を 3 年で終えた医師でサブスペ研修に移行したい希望のある医師については、選考により 4 年次まで研修継続を認める。

新専門医制度 循環器　プログラム責任者：循環器内科　加藤　賢　　プログラム研修期間：3 年

本コースは日本循環器学会専門医制度（循環器 J-OSLER) に則した研修の提供を目的とする。

３年間の研修期間を基本として、循環器学会が規定する症例３６例以上（心不全４例、ショック１例、不整脈・心臓突然死７例、血圧異常３例、虚血性心疾患６例、弁膜疾患３例、心筋疾患３例、感染性心内膜炎・リウマチ熱１例、肺血管疾患１例、先天性心血管疾患１例、全身疾患に伴う心血管異常２例、大動脈疾患･脳血管障害･末梢動脈疾患２例、静脈・リンパ管疾患１例、心臓神経症・神経循環無力症・失神１例）を経験することができる。

また技術・技能（循環器 J-OSLER の修了要件は３９３例以上）については指導医の元で、心臓カテーテル検査・治療やカテーテルアブレーション、ペースメーカー植え込み術、血液循環補助装置（IABP、インペラ、ECMO)、TAVI 等を経験することができる。

希望があれば一定期間の連携施設での研修や心臓外科での研修等も可能。

新専門医制度
呼吸器

プログラム責任者：呼吸器内科　高森　幹雄　　プログラム研修期間：3 年以上

本コースは、呼吸器専門医制度に則った研修の提供を目的とし、コースは基幹施設 1 年以上＋連携施設で合計 3 年以上としている。豊富な当センターの症例経験、連携施設との共同の研修により呼吸器全領域における呼吸器専門医の育成が可能である。

【当センター（基幹施設）】年間 1000 名以上の入退院、肺癌含めた各種腫瘍・結核・肺炎（COVID-19 含む）等の感染症対応・喘息等のアレルギー・慢性呼吸器疾患・睡眠時無呼吸まで幅広く全領域に対応している。本コースは呼吸器専門医に加えて呼吸器内視鏡専門医も目指し、更には感染症・アレルギー・がん薬物療法まで更なる専門研修にも連動可能である。

【連携施設】互いに基幹施設もあれば当院の連携施設もある。救急・慢性呼吸器疾患・抗酸菌専門研修など幅広く連携にて対応している。

新専門医制度
血液

プログラム責任者：血液内科　塚田　端夫　　プログラム研修期間：3 年以上

血液専門医は基本領域である内科専門医の総合的知識を礎に血液学領域の専門的診断力と治療技術を体得した専門医である。多摩総合医療センターでの血液専門医研修では、再生不良性貧血や自己免疫性溶血性貧血などの「赤血球系疾患」、急性白血病や慢性白血病などの「白血球系疾患」、悪性リンパ腫や骨髄腫などの「リンパ系疾患」、後天性血友病などの「血栓止血系疾患」など、良性疾患から悪性疾患まであらゆる領域の症例の経験が可能である。また血液悪性疾患に対しては標準とされている化学療法を中心に治療を行い、再発時には造血幹細胞移植も施行している。さらに CAR-T 療法による細胞免疫治療を導入して治療を行っています。

新専門医制度
内分泌代謝

プログラム責任者：内分泌代謝内科　辻野　元祥　　プログラム研修期間：3 年

当科は日本糖尿病学会、日本内分泌学会の認定教育施設であり、糖尿病専門医（8 名）、内分泌代謝科専門医（9 名）と充実した指導層を擁する。糖尿病については、1 型糖尿病への SAP 療法、isCGM、 2 型糖尿病への GIP/GLP-1RA をはじめ保険診療下での最先端の診療技術を絶えず臨床に活かし、その成果を発信している。内分泌疾患については、甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎、低血糖疾患など、盤石な病診連携体制を背景に豊富な症例数を有している。当院の大きな特徴として、消化器外科と連携し、高度肥満症に対する減量・代謝手術の術前術後の管理も経験することができる。また、臨床研究指導や症例報告指導にも力を入れており、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本肥満学会、日本肥満症治療学会等への発表を義務づけている。

新専門医制度
腎臓

プログラム責任者：腎臓内科　羽田　学　　プログラム研修期間：3 年以上

本コースは、腎臓領域専門医制度に則した研修の提供を目的とする。

ベースとなる基本領域は内科の他、小児科 , 泌尿器科 , 外科である。初期臨床研修を終了し、専門医機構が認定する基本領域の専門医を取得している者、又は、取得見込みの者が腎臓領域専門研修を開始できる。但し、腎臓領域専門研修修了時には、基本領域の専門医を取得できていることが必須である。尚、内科専門医を基本領域とする腎臓専攻医の研修期間は、内科専門研修との 2 年間の連動研修が認められている。連動研修において経験症例として認められるのは、腎臓指導医の指導のもとで経験した症例に限る。研修終了時には入院症例 140 例以上、外来症例 60 例以上の経験と病歴要約計 22 編の記載を目標にする。

新専門医制度
アレルギー(基幹)

プログラム責任者：呼吸器科　村田　研吾　　プログラム研修期間：2 年

東京都アレルギー疾患医療専門病院の 1 つである多摩総合医療センターで診療科横断的に研修を行い、高い水準のアレルギー診療を実践できる能力を養成することを目標とします。専門医機構の認める範囲で他のサブスペシャリティーと並行研修でき、研修年限はそれに応じて短縮が可能です。

当院の救急・総合診療科、呼吸器内科の研修を中心に、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科でもの実習・研修を行うことで、プリックテスト、皮内反応、負荷試験、分子標的薬、生物製剤や気管支サーモプラスティなど、アレルギー専門医の受験資格を得るのに十分な症例、手技を経験することができます。

また小児アレルギー拠点病院である小児総合医療センターアレルギー科で、最高水準の小児アレルギー研修も一定期間選択可能です。

新専門医制度
アレルギー(連携)　プログラム責任者：呼吸器科　村田　研吾　　プログラム研修期間：2 年

本プログラムは大学医局派遣など特定の診療科に採用される医師のための内科系 3 科 (救急・総合診療センター、リウマチ膠原病科、呼吸器内科)、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科の合同プログラムです。

内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科の内、いずれかの専門医を取得している医師が、その基盤領域の診療科に所属しながらアレルギー診療を実践できる能力を養成することを目標とします。

専門医機構の認める範囲で他のサブスペシャリティーと並行研修でき、研修年限はそれに応じて短縮が可能です。いずれの診療科に所属していても、所属長が許可する範囲で上述の診療科内での実習・研修が可能で、アレルギー専門医の受験資格を得るのに十分な症例、手技を経験することができます。

新専門医制度
感染症　プログラム責任者：感染症内科　織田　錬太郎　　プログラム研修期間：3 ～ 4 年

当科では感染症専門医・指導医の元、感染症診療と感染対策を学ぶことが可能である。感染症診療では院内コンサルテーション症例や外来症例を通じて多様な感染症を経験でき、当科特有の疾患（輸入感染症、HIV/AIDS、性行為感染症など）や免疫不全者の感染症もこれらに含まれる。他院感染症科とも連携しており、定期的な勉強会に参加して多施設での症例も共有することができる。学会、論文、執筆などの学術的活動も積極的に行っており、指導の下経験することが可能である。

また、感染対策ではチーム医療としてインフェクションコントロールチームの一員として感染対策・抗菌薬適正使用の活動に携わる。

新専門医制度
リウマチ　プログラム責任者：リウマチ膠原病科　永井　佳樹　　プログラム研修期間：1 ～ 3 年

基幹施設〈多摩総合〉では、専門医 12 名が指導に当たります。ほぼすべてのリウマチ膠原病患者さん約 4000 人が通院されています。また、例年約 500 人が入院され、各種リウマチ外科手術（各種人工関節置換術、関節形成術ほか）や最重症 / 治療困難病態への内科的対応等を受けます。連携施設〈多摩北〉は北多摩北部保健医療圏のリウマチ膠原病診療の拠点で、外来・病棟のほか、リハビリテーションに取り組みやすく、基礎医学にも明るい指導医が指導に当たります。連携施設〈多摩南〉は、内科領域で医師少数地域とされる南多摩保健医療圏のリウマチ膠原病診療の拠点です。外来･病棟のほか､ハイドロリリースを含めた筋骨格超音波検査やリウマチ外来における看護･リハビリテーション外来など、先進的なチーム医療を経験することができます。

新専門医制度
消化器内視鏡　プログラム責任者：消化器内科　並木　伸　　プログラム研修期間：3 年

本コースは日本消化器内視鏡学会 専攻医研修カリキュラムに即した研修を提供し、消化器内視鏡専門医取得をめざすことを目的とする。多摩総合医療センターを基幹施設とし消化器内視鏡全般（消化管出血、急性胆道炎などの緊急内視鏡治療）、消化管及び胆膵領域の消化器癌がんの内視鏡治療まで幅広く研修を行い、消化器内視鏡学会総会もしくは、関東支部例会での発表を行う。

新専門医制度
がん薬物療法　プログラム責任者：呼吸器・腫瘍内科　北園　美弥子　　プログラム研修期間：2 年以上、5 年以内

当院は日本臨床腫瘍学会認定研修施設で、がん薬物療法指導医 5 名、専門医 1 名の充実した指導体制を有する。学会が専門医取得に必修と定める造血器、呼吸器、消化管、乳房の 4 領域の他、婦人科、泌尿器、頭頸部など全領域の院内ローテートが可能で、豊富な症例数を有することが最大の特徴である。原発不明癌や希少癌については専門医が中心となるオンコロジーチームによる定例カンファレンスで治療方針などを協議する他、遺伝子パネル検査結果についての検討も行う。上記領域の診療に加えて、44 床に増床された外来化学療法センターでの診療経験も可能である。研修期間中には日本臨床腫瘍学会での学会発表を経験することを目標とする。がん薬物療法に関する深い学識と高い臨床技能を修得するとともに、がん薬物療法専門医の取得を目指す。

● 多摩北部医療センター（基幹施設）
多摩北部医療センター施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：副院長　村﨑　理史　　プログラム研修期間：3 年
連携施設病院：広尾 / 大久保 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩南 / 神経 / 松沢
公立昭和病院 / 公益財団法人結核予防会　複十字病院 / 公益財団法人榊原記念財団付属　榊原記念病院 /
独立行政法人国立病院機構　東京病院 / 日本医科大学付属病院 / 東京ベイ・浦安市川医療センター /
杏林大学医学部付属病院 / 東京科学大学病院 / 東京大学医学部附属病院 /
東京都健康長寿医療センター / 古賀総合病院 / 東京女子医科大学病院 / 島しょ等

多摩北部医療センターを基幹施設とする、東京都北多摩北部医療圏 (人口約 74 万人) 中心の総合内科専門医育成を目的とした内科標準タイプ研修プログラムです。当院は医療圏の中心的な急性期病院であり、北多摩北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とともに研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指せます。

上記の様に多くの施設と連携を組んでおり、基幹施設である多摩北部医療センターでの 2 年間と連携施設群での 1 年間で、内科専攻研修において求められる「疾患群数」、「症例数」、「病歴提出数」を充分に得ることができます。さらにサブスペシャリティを中心とした専門研修プログラム構築にも柔軟に対応しており、専攻医の希望に沿った研修も行っています。また、当院のみでもカリキュラムに示す内科領域 15 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していますが、連携病院とともにさらなる研修のレベルアップを図っていきます。

症例をある時点で経験するということだけではなく、主治医として、初診、入院から退院、外来通院まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。研修達成度によっては 4 年目に subspecialty 研修を行い専門医を目指すことも可能です。

当院は病床数 337 で、うち内科病床数 178 の初期臨床研修制度基幹型教育特殊病院（研修医 5 名 / 年）でもあり、研修に必要な医学教育アメニティを整備しています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	内科診療科（院内）						ＥＲ研修			内科診療科（院内）		
	総合内科外来（初再診）、内科系、循環器系もしくは地域医療当直研修、ＪＭＥＣＣ受講											
2 年次	内科サブスペシャリティ研修（連携施設）						内科サブスペシャリティ研修（院内）					
	総合内科外来（初再診）、内科系もしくは地域医療当直研修、内科専門医取得のための病歴提出準備											
3 年次	内科サブスペシャリティ研修（院内）											
	救急医療・領域で症例経験の足りないところを地域医療で重点研修、病歴作成完成、サブスペシャリティを見据えた研修											
4 年次	内科サブスペシャリティ研修（院内）											
	各サブスペシャリティの専門医を目指す専門研修											

○ 多摩北部医療センターで研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
腎臓内科

プログラム責任者：腎臓内科　小林　克樹　　プログラム研修期間：3 年（4 年まで延長可）

サブスペシャリティー研修ができる病院は大学病院やそれに準ずるような大規模病院だけではありません。当院は、東京都の北多摩北部地域における腎疾患医療の中核病院です。日本腎臓学会の認定教育施設であり、ネフローゼ症候群や慢性腎炎を始めとして、保存期の慢性腎臓病や透析患者の合併症入院など、ほぼ全ての腎臓病に対応しています。この圏域は人口も緩やかながら増加を続けており、高齢化率も上昇しています。従って今後も腎臓病患者さんは増加すると予想されます。つまり症例には事欠かないわけです。しかも中規模であるため融通が利きやすく、臨機応変な研修が可能です。腎臓専門医の研修をする上で恵まれた環境と言えるかもしれません。是非、この東村山の地で腎臓専門医としての第一歩を踏み出してみませんか？

新専門医制度
血液内科

プログラム責任者：血液内科　本村　小百合　　プログラム研修期間：3 年（4 年まで延長可）

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群といった造血器腫瘍をはじめ、再生不良性貧血、溶血性貧血、

後天性血友病などの血液疾患全般に対し、迅速に診断、治療を行い、抗悪性腫瘍薬の投与、副作用の管理、骨髄抑制の管理、輸血、感染症に対する診断と治療、悪性腫瘍の患者さんに寄り添っていくことを学ぶ事ができる。当院は北多摩北部医療圏で最大の血液内科で、唯一の自己末梢血幹細胞移植が可能な施設であり、幹細胞採取や移植後の管理も行う。豊富な指導医、症例数、無菌室数を持ち、複数の都立病院、大学病院と連携して院外研修が可能で、血液内科のすべての領域に対応できる血液内科医を育成する。国内外の学会発表も積極的に行う。内科専門医研修 2 年目からの連動研修が可能である。

新専門医制度 消化器内科　プログラム責任者：消化器内科　柴田　喜明　　プログラム研修期間：4 年

消化器内科研修に重点をおいた 4 年間の専攻医研修プログラムであり、専攻医はカリキュラムに基づき研修を行い、所定の終了要件を満たすことで日本消化器病学会消化器病専門医受験資格を取得できる。合わせて消化器内視鏡研修も行い、日本消化器内視鏡学会専門医受験資格も取得可能である。当院は、東京都北多摩北部医療圏における中核医療施設であり、他医療機関からの紹介患者や救急搬送件数も多い。消化器病センターを有し、消化器外科との円滑な診療連携を実践している。外来や ER、病棟診療を通じて、主治医として上下部消化管、肝胆膵のコモンディジーズから稀な症例まで、幅広い症例経験を積むことが可能である。研修を通じてアカデミックマインドの育成も重視し、少なくとも年一回の学会発表または論文投稿が出来るよう指導する。

新専門医制度 神経内科　プログラム責任者：神経内科　網野　猛志　　プログラム研修期間：2 ～ 3 年

内科専門医コース修了後に神経内科専門医取得を目指す医師、並びに神経内科専門医を取得後に更なる研修の継続を希望する医師を対象とする。当院の内科専門医研修プログラムとの連動研修が可能である。脳卒中、けいれん発作、ギラン・バレ症候群などの神経救急疾患や，認知症，パーキンソン病など変性疾患を経験することができる。また，血液疾患やリウマチ疾患に合併した神経疾患の症例も豊富である．希望により、連携施設での集中治療室や救命センターでの研修も認める。また、東京科学大学で神経生理、神経病理の研修を行うことも可能である。

研修期間中、毎年 1 回以上の学会発表を行う。

新専門医制度 内分泌・代謝内科　プログラム責任者:内分泌･代謝内科　藤田　寛子　　プログラム研修期間:3 年（4 年まで延長可）

北多摩北部医療圏の内分泌疾患・糖尿病・代謝性疾患の診療を担う中核病院の一員として日々診療活動を行う。内分泌疾患の比率が高く紹介患者の約半数が非糖尿病という特色がある。小児科との連携も良好で小児 1 型糖尿病や性腺疾患・遺伝的異常症に接する機会も少なくない。糖尿病を中心としたチーム医療は充実しており多職種連携や地域との連携を学ぶことができる。産科が始まり、妊娠中の糖代謝異常や甲状腺機能異常症については、今後は対象症例が増えると期待される。前身が東京都多摩老人医療センターであったことから高齢者の内分泌代謝性疾患に強い。日本内分泌学会・日本糖尿病学会の認定教育施設にて、内分泌・糖尿病の領域専門医だけでなく、その上の糖尿病専門医を対象とした研修期間を獲得できる。内科専門医研修 2 年目からの連動研修が可能である。

新専門医制度 循環器内科　プログラム責任者：循環器内科　亀山　欽一　　プログラム研修期間：3 年（4 年まで延長可）

当院は多摩北部医療圏で東京都 CCU ネットワークに加盟する循環器疾患診療の中核施設です。救急医療とともにカテーテル的な冠動脈、不整脈治療などの高度医療を行っています。複数の都立病院等と連携して院外研修も可能で、国内外での学会発表や論文発表にも取り組んでおります。

本専門研修コースは、最新の循環器内科学の十分な知識を有し、循環器疾患の標準的な診療技術に基づく全人的な医療、生涯学習能力とリサーチマインドを有する医師を養成することが目標です。専攻医は日本循環器学会の定める循環器内科専門研修カリキュラム（循環器 J-Osler）に基づいた研修を行いますので、修了要件を満たすことで循環器専門医の受験資格を取得できます。

内科専門医研修 2 年目からの連動研修が可能です。

新専門医制度 リウマチ膠原病科　プログラム責任者:リウマチ膠原病科　杉原　誠人　　プログラム研修期間:3 年（4 年まで延長可）

当院のリウマチ膠原病科は北多摩北部医療圏および埼玉南部地域から広く患者を受け入れています。3 人の指導医

が在籍しており、外来、入院など様々なセッティングで関節リウマチ、自己免疫疾患を中心とした豊富な症例を経験でき、充実した指導を受けることができます。関節超音波検査、基本的な生検手技などを身に着けることができます。最適な医療を提供するために必要な臨床知識の習得や臨床免疫学を習得できます。多摩地域の都立病院ネットワークを生かした様々な勉強会の企画も多く、また東京都医学総合研究所と共同の臨床研究も積極的に行っています。

● 多摩南部地域病院（基幹施設）
多摩南部地域病院施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

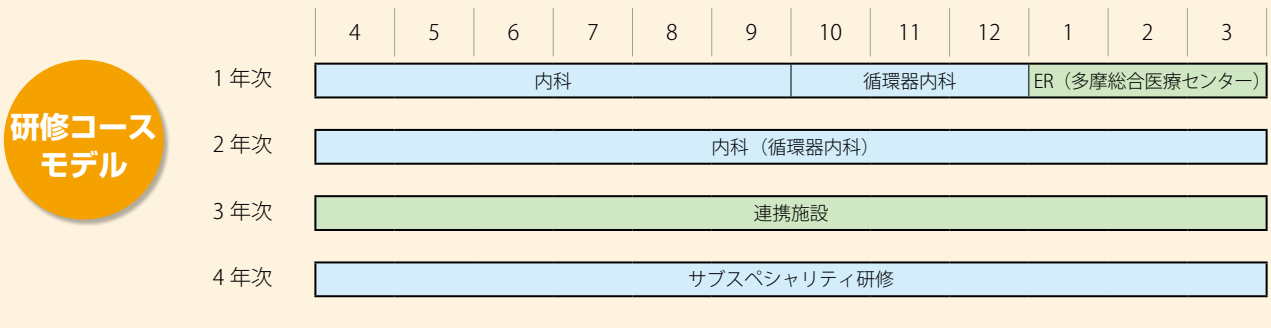
プログラム責任者：内科　本城　聡　　プログラム研修期間：3～4年

連携施設病院：大久保 / 大塚 / 駒込 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩北 / 神経
北里大学病院 / 浦添総合病院（沖縄県）/ 中頭病院（沖縄県）/ 友愛医療センター（沖縄県）/
聖マリアンナ医科大学病院 / 川崎市立多摩病院 / 立川相互病院 / 東海大学医学部付属病院 /
東京医科大学八王子医療センター / 杏林大学医学部付属病院 / 公立阿伎留医療センター /
永寿総合病院 / 湘南鎌倉総合病院 / 国立がん研究センター東病院 / 島しょ等

内科専門プログラム（4年コース）の研修で、連携施設である多摩総合医療センターあるいは多摩北部医療センターなどでの研修を含みます。また、内科専門医取得を目指しながら、多摩南部地域病院において希望する内科サブスペシャリティ分野の研修を並行して行うことも可能です。

多摩南部地域病院では、内科専門医取得のための症例経験を積むことが出来る他、循環器、呼吸器、消化器、糖尿病、リウマチ膠原病の内科系サブスペシャリティ研修に対応します。当院は、東京都CCUネットワーク加盟病院、消化器領域では病棟回診・カンファレンス・内視鏡検査など外科との一体的診療体制、緩和ケア病棟併設、多摩市周辺地域でリウマチ膠原病内科病棟を有する唯一の施設、などの特徴を有しております。また、多摩総合医療センターとは、指導医クラスの人材交流、患者の紹介・逆紹介、施設間カンファレンス開催など、近年、連携を強化していますので、当院のような中規模病院との組み合わせ研修により幅の広い診療経験を積むことができます。

多摩市周辺は、都心と異なり人口規模に比して急性期病院が多くありません。このため、内科急性期医療のニーズがとても大きく、豊富な症例に恵まれた研修環境です。しかも中規模病院のため内科の各分野間においてシームレスな連携をとっています。マルチプロブレムを抱える高齢者医療の必要性が高まる中、個々の患者さんに全人的・包括的視点で取り組む中で、内科専門医としての総合力を高めることができます。



○ 多摩南部地域病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度
内分泌代謝

プログラム責任者：内科　本城　聡　　プログラム研修期間：3年

当院は300床クラスの地域の基幹病院であり、内科では特に総合診療の素養をベースとした糖尿病診療を学べる環境が整っている。糖尿病専門医として、糖尿病専門外来、入院患者対応、フットケア外来・糖尿病透析予防外来におけるチームカンファレンスに参加し、チーム医療の実践を経験する。糖尿病指導医を有する他、看護師にも糖尿病療養指導士の資格を有した看護師がおり、レベルの高い診療を経験できる。また院内他科からのコンサルテーションについて、病棟に往診、各科主治医とディスカッションしながらの治療を経験する。また糖尿病を背景とした疾患につ

いても理解を深め、糖尿病をベースにした感染症診療などについても十分な経験を積む。全身疾患としても糖尿病の加療について、十分な理解と経験を得ることを最終目標とする。

新専門医制度
リウマチ

プログラム責任者：内科　知念　直史　　プログラム研修期間：3 年

内科専門研修終了後あるいは連動研修として 3 年間、リウマチ専門研修を行う。多摩南部地域病院では基幹病院として 2 ～ 1 年の研修を行う。当院は地域の第一線に立ちながらリウマチ性疾患の診療における中核的な医療機関としての役割を担っている。このため、患者の生活により近づいて、比較的頻度の高いリウマチ性疾患を中心とした急性期および慢性期医療を経験することが可能である。関節超音波検査、各種組織生検、整形外科との連携で手術症例の経験も積む。臨床研究や症例報告などの学術活動の素養も身につける。連携施設では 1 ～ 2 年の研修を行う。多摩総合医療センターでは、重症例、難治例、複数の診療科が関与する症例などの研修が可能である。多摩北部医療センターでは当院とは異なる地域医療の研修が可能である。東京都医師アカデミーのスケールメリットを生かし、全人的医療が実践できるリウマチ専門医の育成を行う。

東部地域病院　（連携施設）

指導医責任者：内科　鈴木　聡子
連携をしている基幹施設病院：大久保 / 墨東

研修は、東部地域病院と基幹施設病院の研修に加えて、他の連携施設等をローテーションして、内科全般の診療、技量の能力を身に付けた後、消化器、呼吸器、循環器いずれかの専門科の研修を進めていきます。

内視鏡検査（上部、下部、気管支鏡）、心臓カテーテル検査、超音波検査など幅広い技術を習得できます。各種内科学会への参加、発表を行います。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	消化器内科・呼吸器内科・循環器内科									ER（連携施設）		
2 年次	腎臓内科（連携施設）			神経内科（連携施設）			血液内科（連携施設）			内分泌代謝内科・膠原病内科（連携施設）		
3 年次	基幹施設											
4 年次	消化器内科・呼吸器内科・循環器内科											

神経病院　（連携施設）

指導医責任者：脳神経内科　蕨　陽子
連携をしている基幹施設病院：広尾 / 大久保 / 大塚 / 駒込 / 荏原 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩北 / 多摩南

当院の脳神経内科コースは、広く都立病院の脳神経内科医療を担う神経内科専門医、またリサーチマインドを持った専門医の育成を目的としています。

(1) 都立病院（多摩総合医療センター、多摩南部地域病院、荏原病院）を基幹施設とし、4 年間で内科と神経内科の 2 つの専門医を目指すコースです。当院は日本神経学会の教育施設であり、神経内科専門医試験の高い合格率を誇ります。

(2) 脳神経内科は全国最大規模の病床数（236 床）と指導医数（27 名の各科指導医）を有し、あらゆる神経疾患に関する知識や診療技術を身につけることができます。スタッフには神経生理、神経病理、神経放射線、高次機能、認知症、筋疾患、免疫性疾患、臨床遺伝学などのエキスパートがいます。地域療養支援、訪問診療の研修も行っており、診断の初期から終末期に至るまでの患者サポートや緩和ケア、多職種連携、地域連携を学ぶことができます。

(3) 症例検討会や CPC をはじめとした各種カンファレンスは充実しており、また医師アカデミー生対象の講義が年 25 回と電気生理学に特化した講義が年 8 回組まれています。

(4) 臨床研究や学会発表、論文執筆にも力を入れています。コース修了後に当院で就労しながら大学院へ進む場合、東京都医学総合研究所との連携による学位取得も可能です。

(5) なお、当院は連携施設であり、当院での研修は、基幹施設のプログラムにおける連携研修の一部として行われます。そのため、下図のコースは一例であり、多様性があることをご理解ください。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	内科各科ローテーション（基幹施設）									ER 研修（基幹施設等）		
	説明：基幹施設での勤務を主体として、必修の救命救急短期研修と、専門医取得のために必要な内科症例や脳血管疾患の研修を行う。											
2 年次	連携研修（神経病院、または当院以外の連携病院）											
	説明：基幹施設の連携研修として、基幹施設の連携施設である神経病院、または他の連携病院で内科および脳神経内科の研修を行う。											
3 年次	脳神経内科病棟 1，高次機能			脳神経内科病棟 2，神経放射線			脳神経内科病棟 3，神経生理			脳神経内科病棟 4，神経病理		
	説明：神経病院での勤務を主体として、脳神経内科の各病棟医長の指導を受けながら，サブスペシャリティ研修も並行して行う。											
4 年次	脳神経内科病棟 5，リハビリテーション			院内他科研修			脳神経内科病棟 6，神経耳科・神経眼科			脳神経内科病棟 7，神経精神科		
	説明：神経病院に勤務し、脳神経内科病棟研修とサブスペシャリティ研修に加え、脳外科、小児科、放射線科などの院内他科研修も選択できる。											

○ 神経病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 神経内科　プログラム責任者：脳神経内科　蕨　陽子　　プログラム研修期間：1 ～ 3 年

内科修了後の方が神経内科専門医を目指すコースです。1）当院の脳神経内科は 7 病棟（236 床）あり、専門性の異なる病棟をローテートし臨床医としての研鑽を積みます。専門性をより深めるため、自らに適した病棟を選択する事も出来ます。さらに、神経に関する各診療部門（神経生理・神経放射線・神経病理・高次脳機能・リハビリテーション・精神・神経耳科・神経眼科の 8 部門）も並行して研修します。研修の成果として専門医試験は一回での合格を目指します。2）研究テーマを共有する部長・医長から指導を受けて臨床研究を行い、論文執筆や学会発表を行いながら、コース修了後の博士研究テーマを見出します。3）神経病院の将来を支える人材としての自覚を持ち、若手医師の教育や多職種連携チーム活動、病院運営などに積極的に関わります。

臨床神経生理　プログラム責任者：脳神経内科　蕨　陽子　　プログラム研修期間：1 ～ 3 年

神経内科専門医取得後の方が、日本臨床神経生理学会専門医（脳波、筋電図・神経伝導分野）を目指すコースです。1）全国最大規模の脳神経内科病棟で臨床医としての研鑽を積みながら、臨床神経生理の実践的な研修を行います。学会が定める脳波、筋電図・神経伝導検査のみならず、誘発電位、反復刺激検査、磁気刺激検査、神経・筋エコー検査などの研修も行います。2) 臨床神経生理学を基軸とした様々な臨床研究にも携わり、国際臨床神経生理学会学術大会（ICCN）での発表を目標に学会発表・論文発表を行います。3) 神経病院の将来を支える人材としての自覚を持ち、若手医師の教育や多職種連携チーム活動、病院運営などに積極的に関わります。専門医取得後は、指導医や評議員を見据えて学会活動に貢献し、都立病院のブランド力向上に寄与します。

認知症　プログラム責任者：脳神経内科　蕨　陽子　　プログラム研修期間：1 ～ 3 年

神経内科専門医取得後の方が、日本認知症学会専門医を目指すコースです。1）全国最大規模の脳神経内科病棟で臨床医としての研鑽を積みながら、認知症の実践的な研修を行い、専門医に相応しい医学的素養、臨床技能、医療に対する姿勢を身につけます。日本認知症学会専門医が 6 名在籍しており、物忘れ診断外来や神経心理診察、新規薬剤による治療の研修を通して、診断、治療方針・計画、治療やケアの実践のための主治医としての思考過程や患者・家族への説明・働きかけなどについて深く経験し、実践・考察します。 2）多職種連携や在宅診療、社会福祉政策面、学会活動などへも参画し、専門医としての包括的な姿勢を身につけます。3) 神経病院の将来を支える人材としての自覚を持ち、若手医師の教育や多職種チーム活動、病院運営などに関わります。

内科

てんかん　プログラム責任者：脳神経内科　蕨　陽子　　プログラム研修期間：1 ～ 3 年

神経内科専門医取得後の方が、日本てんかん学会専門医を目指すコースです。1）学会認定教育施設の 3 次てんかん専門施設として包括的てんかん診療の研修を行います。脳神経内科、脳神経外科、神経小児科、神経精神科にてんかん専門医が在籍し、てんかん治療総合センターの一員として、長時間ビデオ脳波モニタリングや手術適応症例を経験します。隣接の都立多摩総合医療センターからの critical care EEG のコンサルトで重積例も多く経験できます。2) 脳波報告書作成をハンズオンで指導する他、脳波カンファレンス、てんかん board、てんかん診療連絡協議会を通して専門医としての包括的な姿勢を身につけます。3) 神経病院の将来を支える人材としての自覚を持ち、若手医師の教育や多職種チーム活動、病院運営などに関わります。

（広尾病院 研修風景（心臓カテーテル））

（大塚病院 内科研修風景 (内視鏡)）

（大久保病院 院内研修風景）

（多摩北部医療センター 研修風景）